



女性委員会9月度例会

「女性目線」での防災！香川同友会地域連携マップ ～うちこれあるでー これできるでー～

日の丸タクシー(株)／代表 平井 啓之氏 (岡山同友会)

災害発生と心境

平成30年(2018年)

7月5日、雨は静かに降り始めました。この雨がその後、真備の町に歴史的な甚大な被害をもたらすなんて思いもしませんでした。それまでの自分

自身の防災意識は全くゼロで、テレビで他の地域の被災地を見ても、自分の地域には関係ないと思っていました。「晴れのように岡山」といつてるくらいなので、自分の地域に災害が起こるなんて全く想定していませんでした。

この豪雨災害の時も5日から6日、7日と雨が降る予報ではあったけど、対策する程でもない大丈夫だろうと、気にもとめていませんでした。

6日の夕方くらいから携帯電話の緊急警報アラームがどんどん鳴りはじめましたが、あまりに鳴るもんだから、途中から無視して内容は見ていませんでした。

会社裏の川の堤防から

水があふれて流れてきて、まだ心のどこかで大丈夫だろうと高を括っていました。まして、まさかこれから町全体が水没するなんて想像もしていませんでした。

7日の2時28分、会社に流れ込んできた水が、気が付けばくるぶしくらいまでできていました。そして9時頃、とうとう会社裏の川の堤防が決壊しました。決壊した途端みるみる水かさが増えていき、この前まではまだ川の反対側から助けられて避難してきた人達の一時的な避難所として使わせてもらえないかという事で、会社の2階を解放して暖房を入れて暖をとってもらっていました。

私自身は6日が金曜日だったこともあって、金曜日はタクシーがよく動くので、会社にずっとつめていました。それから7日、8日と会社から出る事ができず、8日の深



夜12時半頃になって、ようやく自衛隊のボートで救助してもらいました。会社が水没していきの様子をずっと眺める事しかできず、頭の中では「これはもう倒産やな」「終わったわ」「社員は皆辞めていくじゃろな」「倒産したらどうなるんやろ」「車とかどうやって片付けりゃええんじゃろ」とか後ろ向きな事しか考えられませんでした。そんな中で避難してこれた人達からは「助かったわ」「ここに日の丸さんがあって良かった」「いつも使ってるよ」「またタクシー乗るぞ」と感謝の言葉や励ましの言葉も沢山もらって、地域に支えられて仕事をさせてもらってるって事を実感しました。皆の言葉に勇気や元気をもらえた事で、「潰すわけにはいかんわな」と自分

自身もすこし前向きに考えられるようになりました。

しかし、現実問題、バス、トラックは全滅、タクシーもたまたま別の営業所に停めていた12台は無事でしたが、会社にあった22台は全滅。営業車両全体で59台中44台が水没、会社1階も水没してパソコンや配車システム、整備道具など一切を失い、被害総額は約2.2億円でした。

9日に被災後初めて事務所に入った時には想像以上に無残な姿に言葉を失いました。トラックは屋根に引っかけたり、タクシーは折り重なり、事務所の中は3センチくらいの泥で埋まっていましたし、事務用品は全て水没して泥だらけでもう無茶苦茶でした。頑張ろうとは言ったものの、何か

ら手を付ければいいのかと途方に暮れました。

社員の自宅も14名が全壊です。通勤車両も5名が水没。電気、ガス、水道、インフラも全てが止まってしまっていました。電気は4日後、ガスはガス屋さんが水没してしまっていたので、全く復旧せず、水道は1週間から10日くらい復旧にかりました。固定電話はN.T.Tが1ヶ月半くらい繋がらず、固定電話にお客様から依頼を頂いて配車するスタイルが8割程でしたので、電話が繋がらないから「あそこの会社は潰れた」と言われていました。もう町中がゴミだらけで、被災前と景色は変わってしまっていました。

復興に向けて

被災前の時はまだ専務でしたが、この時は全てを取り仕切っていたので、何もかもが私の所に集中していました。その流れで、私も当初は片付けに参加していました。その時、社内で一人だけ岡山同友会の社員教育大学を卒業してバスの部長をしていていた

社員が、「専務片付けはもういいです。もう来んといってください。バスは1台も残ってないので、バスのドライバーが責任持って片付けやりますんで、専務は専務にしかできませんやってください」と言ってくれました。もう涙が出るほど嬉しかったし、そこで初めて自分は何をやってるのだろう、自分の考え方を変えないといけないかと気がきました。

そこからは、一切片付けには参加せず彼らに任せようになり、自分は経営者としてやるべき事を社員ののためにやるようになりました。本当に暑い中、熱中症のようになりながらも同業者や取引先の人も手伝いに来てくれましたし、社員も公休返上で片付けを手伝ってくれました。そのおかげで、10月20日にリニューアルする事ができました。日の丸タクシーは約3ヶ月で事業を再開する事ができましたが、町内のほとんどの企業がまだまだ再開できないような状況ではありませんでした。

営業は再開できたものの、世間では潰れたと言われてたの

で、とにかく営業してますよって事を知ってもらうために社員の皆で考えて、手書きのポスターを駅や避難所やスーパーに貼らせてもらって、1台残っていた携帯電話の番号を書いて、そこからの再スタートでした。

介護タクシーもやっていましたので、「透析の利用者さんは命にかかわるから、何としても最優先で連れて行ってあげんといかん」という話しにはなりましたが、困ったのが予約帳も全て水没してしまっていたので、利用履歴が全く分かりませんでした。必死で記憶をたどって迎えに行きました。

ある利用者さんの家に行ってみると、利用者さんはもう出てしまった後でした。家族の方も、日の丸タクシーは潰れたと思われていたので、もう来てもらえないと思っていたところにタクシーが来たのを見て、涙を流して喜んでくれて、「次は絶対待ってとくよ」と言われたと、ドライバーさんが涙ぐみながら話してくれた事もありました。

復興のネックになってくる

のはやはり資金面です。特に最初に悩んだのが給料です。会社の給料は月末締め翌10日払いです。被災が7、8日で9日に会社に行ったものの、用意していた振り込み依頼書も当然無くなってしまっていたし、銀行自体も被災していた状態でどうにもならず、「これは給料は払えん。そもそも、こんな被災した状態で払う必要があるのか」とも考えましたが、以前同友会で災害にあった時の話を聞いた事があって、報告者の方が「給料だけは出さんといかん。何があっても、それは経営者の責任や」という話を聞いた事が頭によぎって、こんな状況でほんまに出さんといかんのかなと思いつつ、社員にしてみれば、支払いのある社員も当然おるやろうし、やっぱり何とかせんといかんと思つて銀行の担当者、とりあえず前月と同じ額でいいから振り込んで欲しいとお願いで、なんとかそれで

振り込みはできました。社員の方も、まさか給料が入っているとは思っておらず、何人も「お給料ありがとうございます」とお礼を言いに来てくれて喜んでくれました。

学びを活かす ピンチをチャンスに

社員は皆辞めていくと思つていましたが、辞める社員はほとんどいませんでした。雇用を守る同友会でもよく言いますが、こんな災害の時に社員を守るかどうか。そのために日頃からどう社員と関わりをもつて接していくか、そこで信頼関係をどれだけ築けているかで大きく違ってくると思います。これも同友会で学んでいなかったら、もっともつと辞め

ていたと思います。

私も同友会で幽霊会員の時期がありましたが、この時は多い時では年間18名の社員が辞めていました。その後、同友会で学び初めてから信頼関係やコミュニケーションはやっぱり大切と勉強を重ねるうちに、自分ではなかなか分かりませんが、社員を大切にしようになつていったのだと思えます。

同友会では社員をパートナーと言いますが、理解はできていたのですが、実践はできていませんでした。でも今回の事で、本当に自分一人では何も



きない事を身に沁みて感じたので、それからはそれぞれに役割を付けて、組織図を作り、役割分担を明確にして任せるようにして頼るようにしました。

経営理念も10年以上前で作ってましたが、この1〜2年でようやく社員皆で相談しながら指針書に取り組める環境になり、実践できるようになりました。

災害の準備

考えられていますか？

いざという時のシミュレーションがまず大切です。日の丸タクシーでは災害以降、何かあればまず車を避難させようという事で、少し小高いところに敷地の広い後輩の会社があるので、そこへ避難車両を置かせてもらうようにしました。実際これまで3回くらい車を持っていきました。あと大切なのが保険です。今回たまたま水害保険に入っていたおかげで復興するのが早かったです。真備の中でも水害保険に入っている会社とそうでない会社では復興まで全然違っていましたが、水害保険に入っている家は新

しく建てるのが早かったです。

社内ではこの教訓を活かして、主装置やサーバーは会社の2階へ移動させました。サーバーはクラウドも使うようになり、いざという時のリスク分散にも取り組むようになりました。連絡体制は、被災時に安否確認やちよつとした連絡をするのにLINEが凄く役に立ったので、今でも社内グループを作って連絡事項のやりとりなんかもLINEを活用しています。

最後に

なんとといっても、まずは人命第一、安全第一です。とにかく「逃げる」という事を頭に置いておいてもらいたいです。私は被災時会社に居たので、2階へ垂直避難という形しかとれませんでした。避難できる時に迷わず避難してもらいたいと思います。いざという時のためにも、普段から地域や行政に関わりを持っておく。あと同友会もそうです。他企業との繋がりも大切です。普段から積極的に関わるようにしておいてもらいたいと思います。



今社内で課題になっているのが「タクシー営業をどこまで運行するのか」という事です。普段から困っている人の日常の足としてタクシーを利用してもらいたいと考えています。が、避難となった時はどうするのか。もちろん逃げられない人や電話がかかってくるたら助けに行くと、避難の足として使ってもらいたいという気持ちはあるのですが、では、どこまで出来るのか。実際、用水路から水があふれて連絡をくれた方の所までたどりつけず、お亡くなりになるという事もありました。そういう人が助かる方法というのも考えていかなければいけないし、かといってドラ

イバーが危険にさらされるギリギリの所まで行ってくれとは会社としては言えません。従業員の安全も確保しないといけないし、助けられる命なら助きたい。この線引きはまだ答えが出ていません。

普段から少しでも防災に関心や意識を持ってもらいたいです。今回の水害もハザードマップの予想被災地域とどんぴしゃでした。普段から防災意識をもう少しでも持つていれば防げた被害もあったと思います。ですから、今から皆さんには少しでも防災への意識を持って考えてもらいたいとお願います。

女性委員会9月度例会

座長より例会のまとめ

座長

(株)大渚亭／取締役 洲崎 文氏
(高松第2支部)

この例会の企画は、4年前の西日本豪雨と同じ時期に当店で60名様のご予約がキャンセルあったところから始まっていたのかも知れません。お客様のご親戚の半分が真備町にお住まいと聞き、家が浸水して式どころではないと、連日被災の報道で町全体が水につかっているのを見て、高松からたった1時間余りしか離れていない場所でこんな事が本当に起こるのかと、災害を身近に感じ恐ろしくなると共に防災に関心を持つようになりました。

今回の例会を担当する事になり、ご報告頂く平井氏の会社が真備町だと聞きご縁を感じました。平井氏からは「町自体も災害前と変わらない様子になり、だんだん記憶が薄れていくところがあって、語って伝えていくことは大切なことだ」と聞き、香川でひとりでも多くの方に聞いていただくことが、私たちの役目だと思いました。

グループ討論では、平井氏のご報告の中でおっしゃっていた地域との関わり、連携を考えていくうえで、まず同友会会員同士の連携を地域連携マップという形にする事から始めようと企画をベースに話



し合いました。その中で、女性委員会として女性目線等、経営者としての目線に加え、生活者としての目線や母親目線を含めて防災について討論してもらい、女性が安心して避難できる場所、子供連れでも周囲に嫌がられない避難所、経営者や夫が安心して復興に従事できるための家庭での防災準備の必要性など、興味深い意見がたくさん交わされ防災の奥深さを感じました。

今もし災害が起きたら私たちは何ができるのでしょうか。地域の方々に支えられている私たち中小企業ですが、地域との連携はまだ薄いのが現状です。災害が起こった時、避難所まで辿り着けないとしたら周囲で灯りがついている所を探し、小さな子どもを抱えている母親は少しでも顔馴染みの安心できる場所を探すはずです。体の不自由な方やお年寄りには近くて安心できる避難所も必要です。

私たち企業者は、もしもの時に地域のために強みを活かして対応する必要があります。どのような災害があっても社員が安心して安全な状態で生活できるよう、地域の人たちの生活を守ることは経営を維持し発展させる上でも大切です。

災害の少ない住みやすい町は、逆を言えば災害が来ないが故に災害に関心の少ない、災害に弱い町という事になります。この例会を通じて、一人でも多くの経営者が防災意識を高め、真備での経験や教訓、思いを受け継いで、これから香川同友会が中心に、地域の防災への関心、地域連携マップの取り組みの輪が広がる事を願っています。

